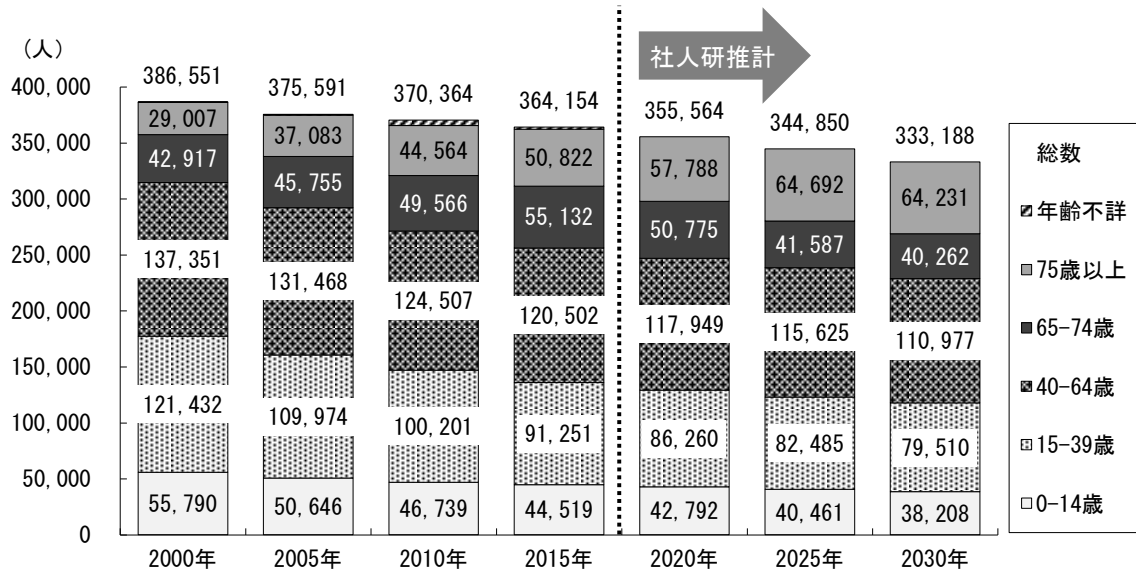


# 子ども・子育て支援事業計画策定にかかる和歌山市の現状について

## 1. 人口

### (1) 総人口と推計人口

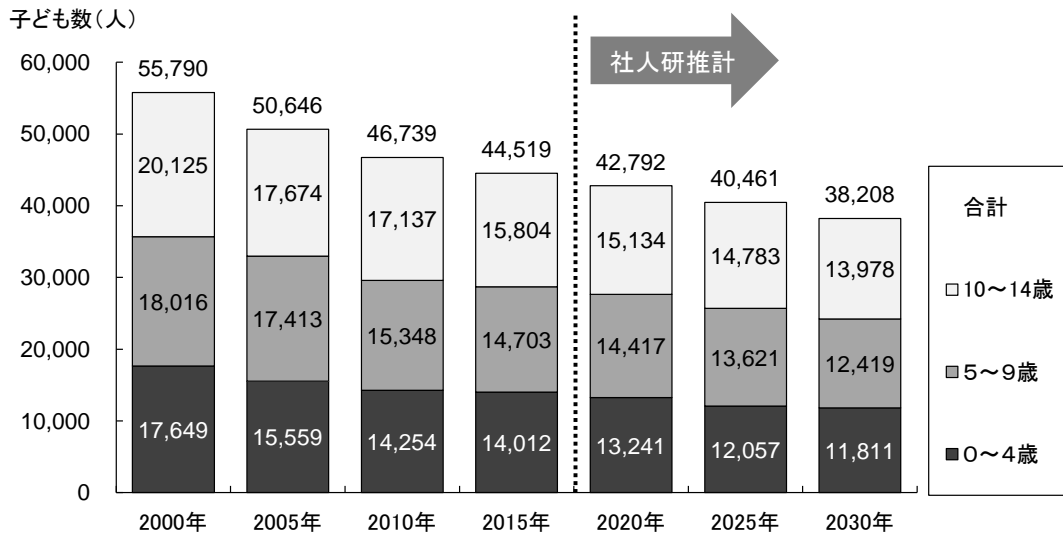
和歌山市の人口は 2015 年国勢調査で 36 万人、14 歳以下の子どもの人数は 44,519 人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、将来的にも人口の減少と子供数の減少が続く見込みです。



資料：国勢調査

### (2) 若年人口

2030 年にかけて、おおむね 5 年で 2,000 人の割合で、14 歳以下の人口が減少する見込みです。

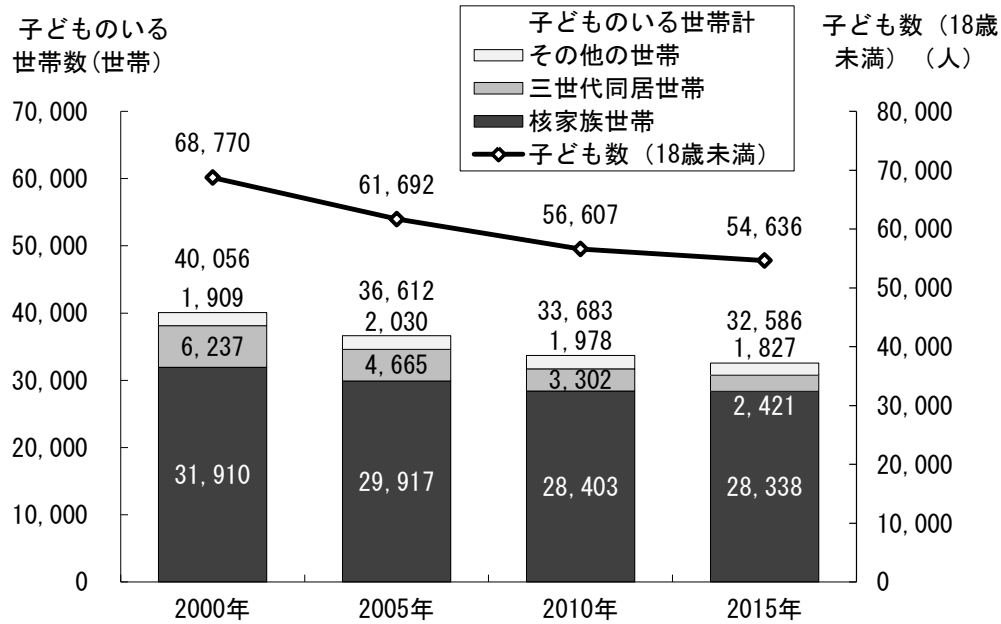


資料：国勢調査

## 2. 子供のいる世帯

### (1) 子供のいる世帯数の推移

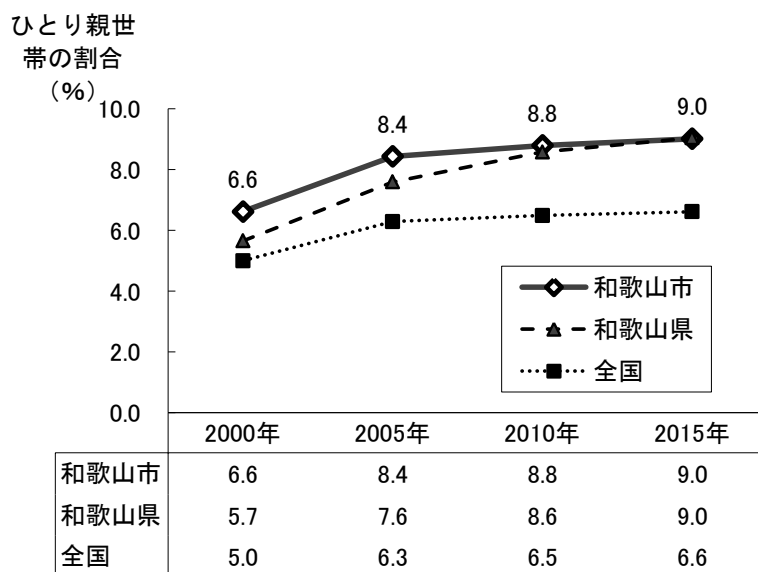
18歳未満の子供のいる世帯は、2000年の4万世帯から2015年には32,586世帯に減少し、18歳未満の子ども数も、6万9千人から54,636人に減少しています。三世帯同居世帯の減少が顕著です。



資料：国勢調査

### (2) ひとり親世帯

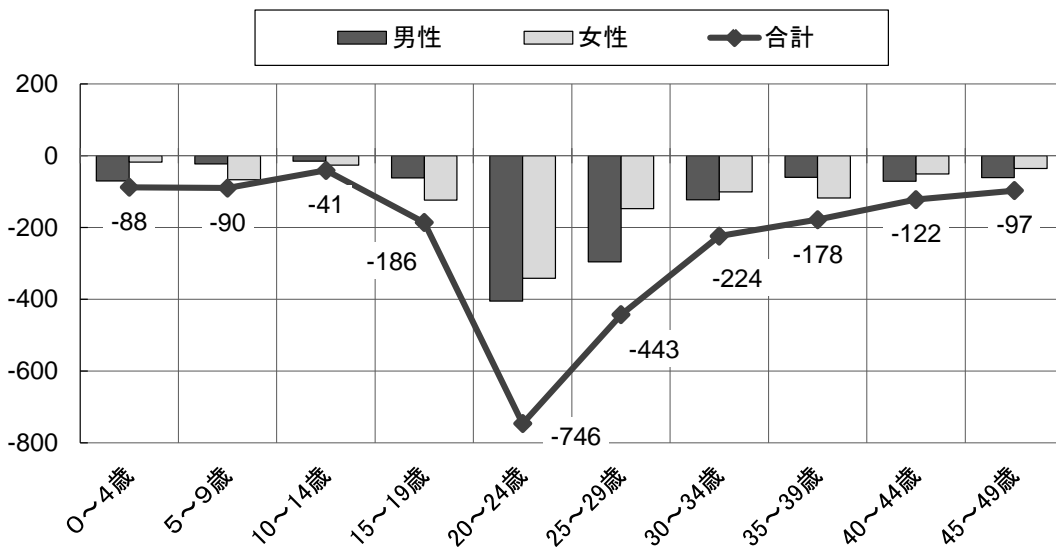
18歳未満の子供のいる世帯に占める一人親世帯の割合は、2015年で9%となっています。全国平均より高く、和歌山県の平均と同じです。2015年では、ひとり親世帯の92%が母子世帯です。



資料：国勢調査

### 3. 人口移動

2014年から2017年の和歌山市の年齢別の純移動数（転入者数－転出者数）の合計をみると、49歳以下のすべての年代で男女ともに、純移動数がマイナスとなっています。子どものいる世帯についても、市外への転出による人口減少が続いています。

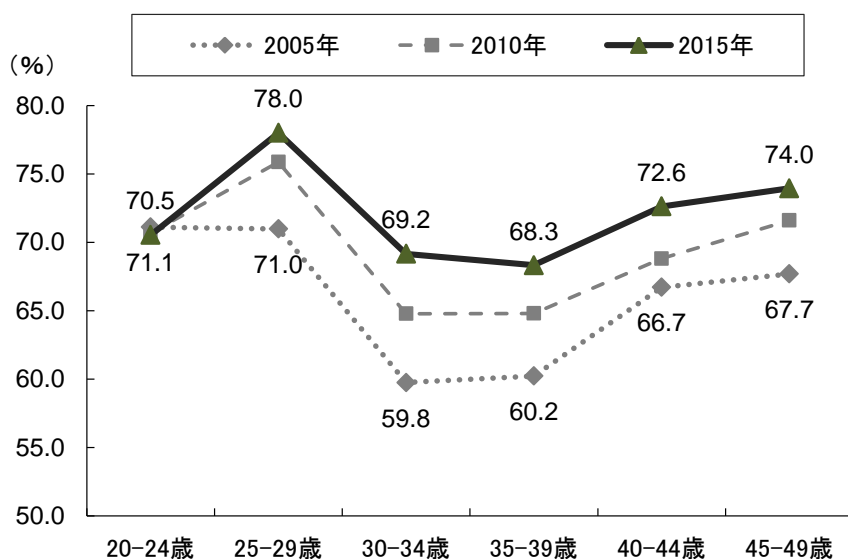


資料：住民基本台帳人口移動報告

### 4. 女性の就労

#### (1) 女性の労働力率

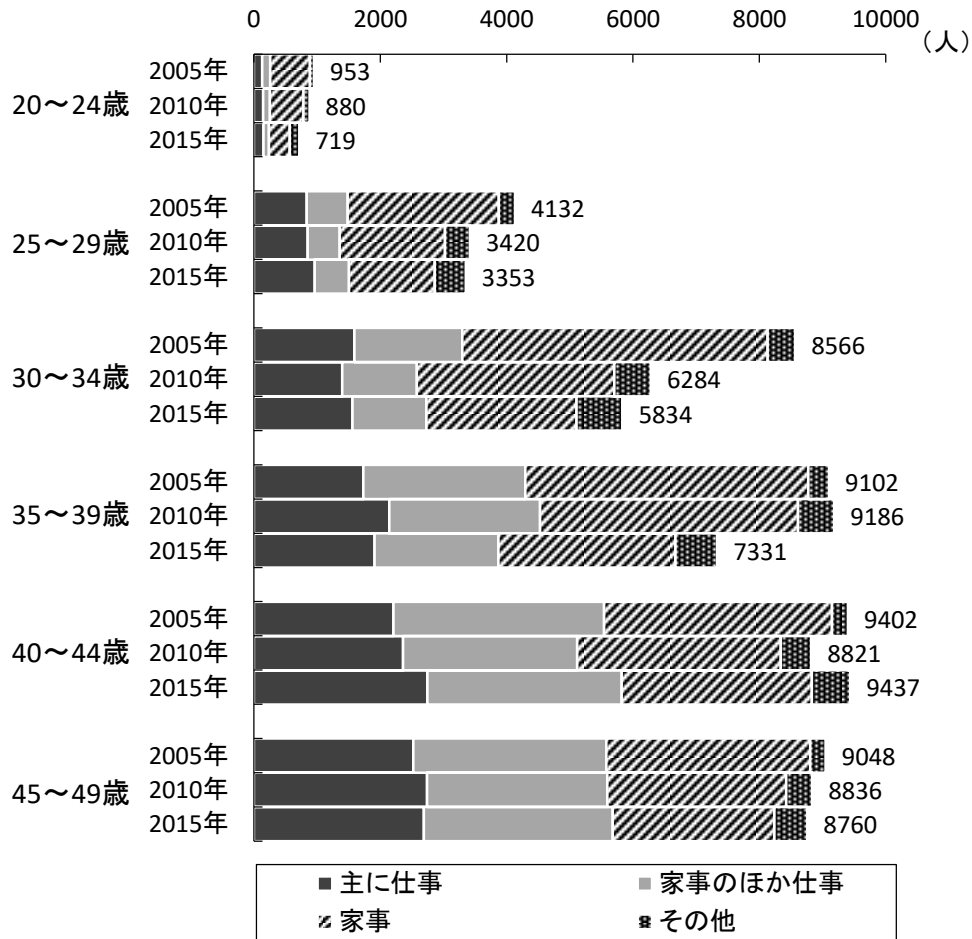
年齢別の女性の労働力率の推移を見ると、2005年から2010年にかけて、特に30歳代の労働力率（就業・休業・求職中の割合）が10ポイント近く増加しています。いわゆるM字カーブの谷が浅くなっており、出産後も仕事を続けたり、早期に仕事を再開する女性が増加していることがうかがえます。



資料：国勢調査

## (2) 有配偶女性の就業状況

有配偶女性の年齢別の就業状況をみると、いずれの年代も有配偶女性の人口は減少傾向ですが、家事従事者（いわゆる専業主婦）の割合が減少し、「主に仕事」「家事のほか仕事」の割合が増加しています。

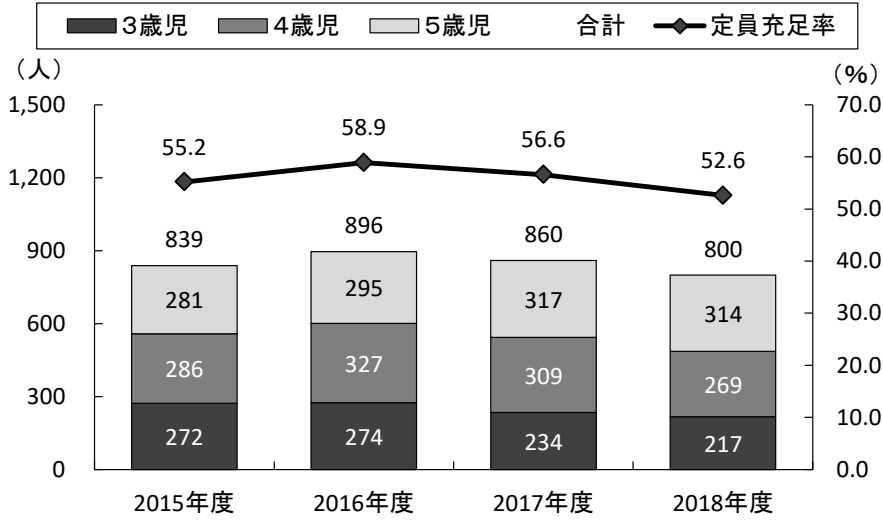


資料：国勢調査

## 5. 就学前教育・保育施設

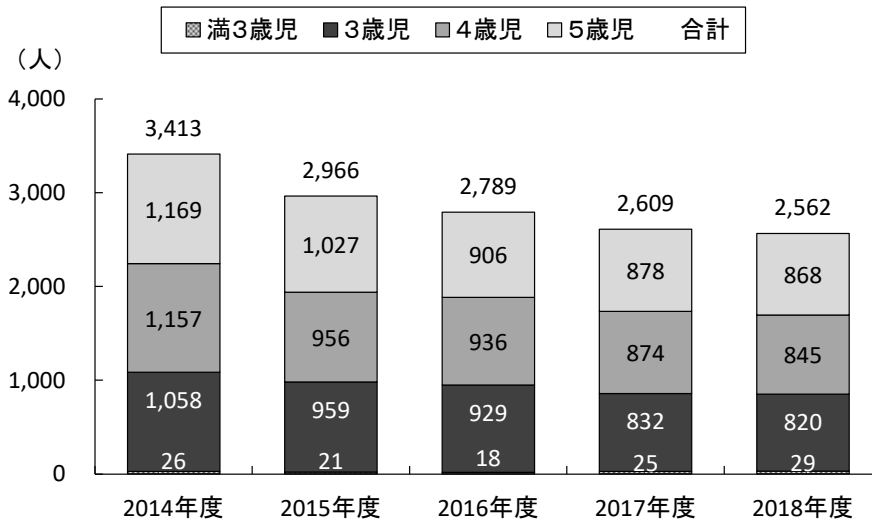
### (1) 市立幼稚園

市立幼稚園は、近年園児数が減少し、充足率も低下しています。



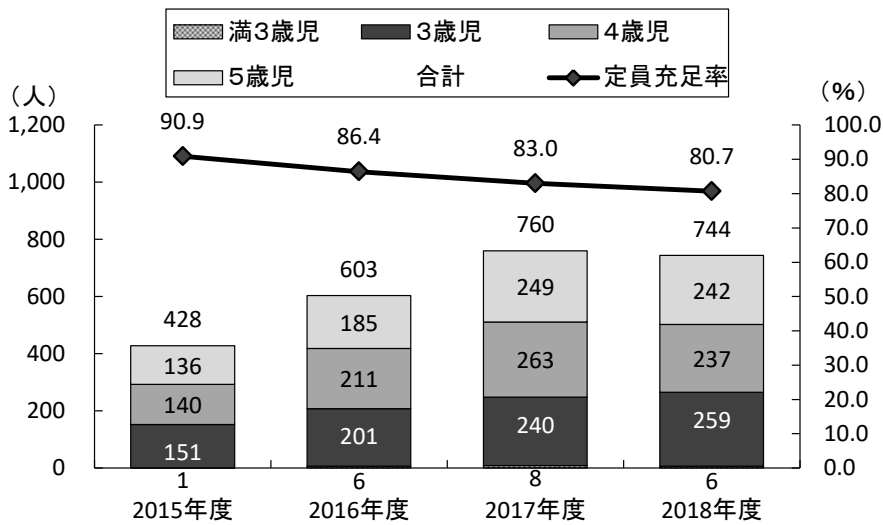
### (2) 私立幼稚園

私立幼稚園は認定こども園化による園数の減少もあり、在園児数が減少しています。



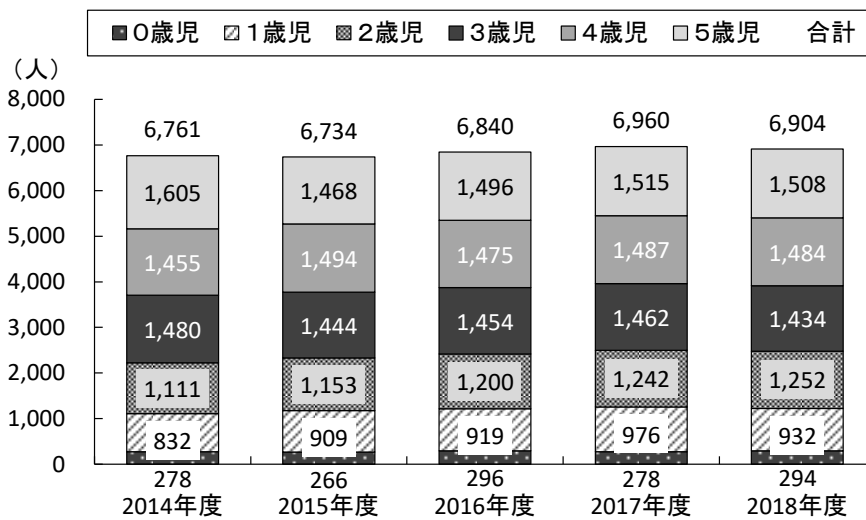
### (3) 認定こども園（1号認定児）

認定こども園は私立幼稚園からの転換等で園児数が増加しています。定員充足率は低下傾向です。



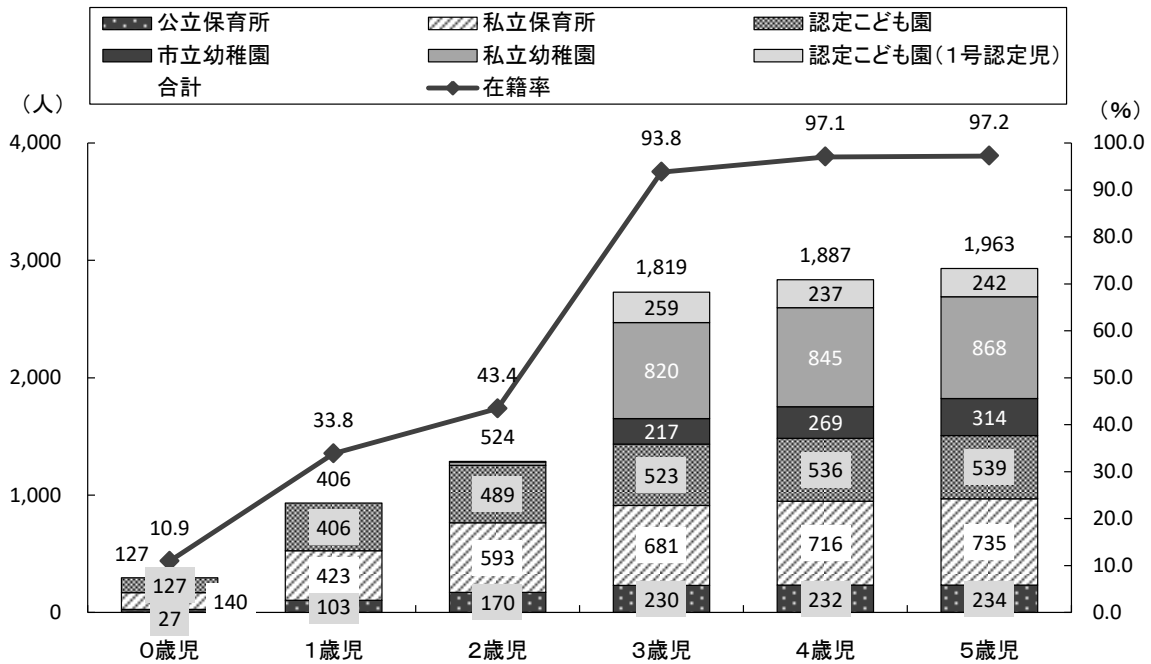
### (4) 保育所・認定こども園（2・3号認定児）

保育所・認定こども園の就園児数は、2017年度まで増加傾向でしたが、2018年度はやや減少しています。



(5) 就学前教育・保育施設在籍者数（2018年5月）

3歳児以降の就学前教育・保育施設の在籍率は9割を超えています。0～2歳児は私立保育園、3～5歳児は私立幼稚園の在籍者が最も多くなっています。



6. 若竹学級（学童保育）

若竹学級在籍者数は、近年増加しており、全児童に対する在籍率も2割近くまで増加しています。全体の増加に伴い、4年生以上の在籍者数が、最近5年で4倍近く増加しています。

